

2013年12月2日

日本政策投資銀行の環境格付において、
最高ランクの格付を取得・特別表彰を受賞

株式会社三菱ケミカルホールディングス

株式会社三菱ケミカルホールディングス（本社：東京都千代田区、社長：小林喜光、以下「MCHC」）は、株式会社日本政策投資銀行（本社：東京都千代田区、社長：橋本徹、以下「DBJ」）の環境格付評価で、最高ランクの格付を取得しました。

また、評価点が200点（250点満点中）を越えたため、特別表彰を受賞しました。

今回の格付では、以下の点が高く評価されました。

- (1) 長年蓄積してきた技術を応用した環境配慮型製品について、製造段階における省資源・省エネ活動といった直接的な効果はもとより、製品を通じたCO₂の削減や水資源の保全などライフサイクルにわたるサステナビリティへの貢献を定量的に把握し、MOS（Management of Sustainability）指標^(注1)として財務目標と一体で管理することにより開発および販売を促進する体制を構築している点
- (2) 独自の「地球環境負荷指標」を用いて事業活動に伴う環境影響の最小化に努めるとともに、化学物質のリスク評価やScope3^(注2)算定にかかる業界ガイドラインの策定に主体的に関与している点
- (3) MOS指標をKPI（Key Performance Indicator：重要業績評価指標）として組み込みつつ、財務情報と非財務情報を統合した形で「KAITEKIレポート」等による情報開示を推進している点

今後とも、MCHCはKAITEKI^(注3)実現を率先して進めていく決意を込めたコーポレートブランド「THE KAITEKI COMPANY」のもと、人、社会、そして地球環境のより良い関係を創ることをめざし、活動してまいります。

以上

(別紙)

- (注1) 「MOS(Management of Sustainability)指標」：MCHCグループの企業活動の判断基準であるSustainability〔Green〕（環境・資源）、Health（健康）、Comfort（快適）の3つの視点から、環境負荷低減、資源の持続可能な利用、エネルギー使用量の削減、人々のQOLの向上、より快適な生活への貢献など、MCHCグループ全体として重要性が高く、サステナビリティに貢献できる項目で構成された指標のこと。MCHCの登録商標。
- (注2) 企業自身が直接排出した温室効果ガス（GHG）排出量を「Scope1」、電力使用など間接的に排出したGHG排出量を「Scope2」、Scope2に含まれない間接排出量のうち、企業のサプライチェーン上（製造、輸送、出張、通勤等）でのGHG排出量を「Scope3」といい、対外的に開示する動きが強まっています。
- (注3) MCHCはKAITEKIを「人にとっての心地よさに加えて、社会にとっての快適、地球にとっての快適をあわせもったもので、真に持続可能な状態」と定義しています。

11月26日特別表彰授与の様子



左から

DBJ 代表取締役副社長 柳正憲様

MCHC 経営戦略室 KAITEKI グループ グループマネジャー 華房実保

MCHC 代表取締役副社長執行役員 吉村章太郎

<本件に関するお問合せ先>

【報道関係】

株式会社三菱ケミカルホールディングス

広報・IR室

TEL: 03-6748-7140